

前田病院だより

Maeda Hospital News

平成27年 7月発行

No. 40

前田病院広報



病院理念

心・信・真

《安心と信頼の医療を真心こめて》

夜間睡眠中透析



副院長 前田篤宏

(夜間の睡眠時間を利用して血液透析をすること)

血液透析は一般的には1回に5時間前後かかりますので(当院は6時間)、患者さんは17時くらいまでに病院に到着しておかなくてはなりません。

17時頃までに来て頂かないと、患者さんが帰るのは6時間後の23時頃ですが、スタッフはそれから更に後片付けと翌日の透析の準備がありますので、帰るのがとても遅くなってしまいます。夕方5時までに病院に到着するためには、

『家族と夕食を一緒に食べられない』

『定時まで仕事ができず、早退しなければならない』

など、働き盛りの透析患者さんにとってハードルが高くなっているのが現状です。

当院では、そういった働き盛りの透析患者さんのお手伝いをしたいと考え、深夜・寝ている間に血液透析をする夜間睡眠中透析を始めました。

夜の10時30分までに病院に来て頂き、夜11時から朝の7時まで透析をします。

これは佐賀県では初の試みで、お隣の福岡市・佐世保市等でも無い試みです。

透析時間は8時間になりますが、睡眠しますので、実際に感じる時間は2時間程度と言われていきます。また、8時間という通常の2倍近くの時間をかけて透析をする事で、毒素が十分に除去できますので、食事療法がそれ程必要なくなり、血圧・心臓の機能・貧血・倦怠感・足のつり・かゆみ・皮膚の褐色化・食欲・口渇・体力等も改善するとされています。

当直をしてくださるスタッフや医師の確保、専用の機材の購入・準備等、決して平坦な道のりではありませんでしたが、何とか開始する事が出来ました。

夜間睡眠中透析で働き盛りの透析患者さんがもっと元気になる事で、ご家族、地域、伊万里がさらにハッピーになって行く事を切に願っています。最後に、このプロジェクトを達成するのに尽力してくれたスタッフに感謝の意を表したいと思います。

医療法人幸善会
前田病院

〒848-0027

佐賀県伊万里市立花町2742番地1

TEL 0955(23)5101 FAX 0955(23)3315

TEL 0955(23)8835 (腎センター直通)

URL <http://www.maeda-imari.or.jp>





在宅医療連携拠点事業のご案内



在宅医療連携拠点事業とは、医療や介護を必要とされる方が、安心して在宅（住み慣れた場所や地域）で暮らすための医療・看護・介護の連携を推進する事業です。

伊万里有田地区では、TRITRUS（トリトラス）という在宅医療介護連携における情報共有システムを導入しました。これは、パソコンやタブレット、スマートフォンなどを使用し、患者さんに関わる関係者がインターネットを介して、患者さんの状態を情報共有するためのシステムです。

TRITRUSの有用時には、患者さん・ご家族、各事業所へ個別にご案内させていただきますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

また、伊万里有田地区は、西田病院、小島病院、グリーンヒル幸寿園、前田病院の4施設が拠点となり、24時間対応の相談窓口を設置しております。「通院が困難のため往診して欲しい」「家族の介護で悩んでいる」、どこに相談したら良いか分からない困りごとなど、当院におかかりの方に限らず、どなたでもご相談いただけます。



ご相談・お問い合わせの際は、**TEL:080-9240-5833** までご連絡ください。

在宅医療連携拠点事業 グループ窓口担当者： 浦



デイケアの紹介



当院の通所リハビリテーション（デイケア）事業所では利用者さんが「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを、人生最後まで続けることが出来るよう」にサポートを行っています。当院デイケアでは入浴や食事のサービスはあえて行わず、6種類のマシンを使ったパワーリハビリ（筋肉の再活動化を図る）を中心に運動の実施、さらに要介護以上の方には理学療法士・言語聴覚士が個別のリハビリなど運動に特化したサービスを提供しています。また、今年に入り買い物、電話、外出など、自立した日常生活を送ること（IADL）に焦点をあてた活動やイベントも行っています。イベントは買い物をして料理をしたり、託児所の園児たちと花を植えたり、野菜を植えて育てたりしています。見学・体験、ご利用につきましては、担当ケアマネージャーにご相談ください。



フットケアについて

看護師・佐賀県糖尿病療養指導士 小林恵美子

今年も猛暑が予想されていますが、体調は如何でしょうか？今回は足の話です。

糖尿病の患者さんは足の状態に気を付ける必要があります。血糖コントロールの悪い状態が続くと、足先まで達する末梢神経が変化して感覚が鈍くなったり、大腿部から足先まで血管が細くなって酸素や栄養を供給できなくなることがあります。靴に覆われた足は、靴擦れや胼胝(たこ)、水虫、巻き爪による炎症などトラブルを起こしてしまいがちです。また糖尿病の患者さんは、感覚が鈍くなっており、このような状態になっても痛みを感じず、発見が遅れる事がしばしばあります。トラブルを放置すると、足潰瘍や足壊疽(足が黒く変色して悪臭がしたりする)になり切断という最悪の結果を招く危険性があります。そのため予防と早期発見が大切です。糖尿病による足病変のセルフケアについて、主な注意点を紹介します。

- ①毎日足を洗い、よく乾燥させて清潔にしましょう。
- ②足の変化を毎日観察しましょう(靴ずれ・水ぶくれ・腫れ・皮膚の変化・たこ・切り傷・化膿など)自分で観察できない方はご家族や他の方に協力してもらって下さい。
- ③素足で歩かず、靴下をはきましょう。
- ④靴は自分の足に合ったものを履きましょう。
靴ひもは毎回結び直しましょう。
- ⑤靴を履く時は中に小石など異物が入っていないか確認しましょう。
- ⑥火傷をしないように、こたつやあなか、ホットアイロンなど直接皮膚に近づけないように気をつけましょう。
- ⑦皮膚が乾燥していたら、保湿クリームを使用しひび割れなどが無いように予防しましょう。
- ⑧たこやうおのめを自分で削ったり、自己流で治療しないようにしましょう。
- ⑨爪はまっすぐに切り、角を深く切り込み過ぎたり、深爪しないようにしましょう。
- ⑩足に異変が出たら放置せずすぐに受診しましょう。

以上のことに気を付け一生涯自分の2本の足で生活しましょう。

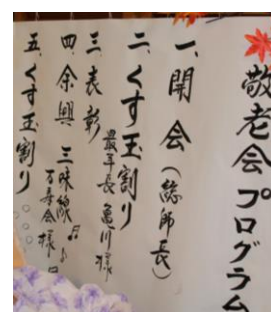


スタッフ紹介

横田知子 (3病棟・介護福祉士)

横田さんはとても書道が上手で、介護病棟の壁面を詩画で飾ったり、イベントのタイトルや進行など、柔らかく美しい書を書かれ、いつも感心するばかりの出来栄です。敬老会の長寿を祝う表彰状も、頂く患者さんは喜ばれていると思います。現在では書道は趣味のひとつになり日常生活で文字を書く時、筆を使う事は少なくなりました。横田さんは小学5年生のとき書道教室に習い始めたそうですが、初めはバスで通うバス代の残りを楽しみに通ったそうです。中学時代はソフトボールに夢中だったようですが、高校で書道部に入りそれから書続けているそうです。長く書いてきた人は基礎がしっかり出来ていますから、思い通りの字が書けるのだと思います。

しかしいきなり小学生が、電子辞書の漢字を筆で書き有名になったり、書道甲子園などのパフォーマンスですばらしい作品で競ったりと、書道も関心を持って見ていると、すばらしい芸術作品を色んな所で見る事ができます。色んな場所で昔の人が書いたものが石に刻まれているので、そんな場所を探してみるのも楽しいのではと思います。



診療受付時間 平日 9:00～12:00 / 14:00～17:30 (内科 15:00～)

* 受付 17:00 まで

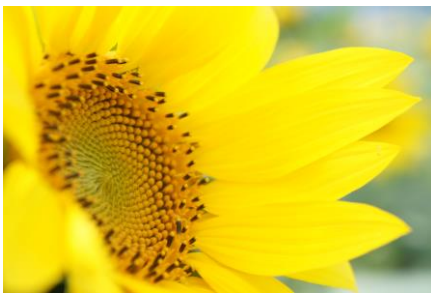
土曜日 9:00～12:00 (土曜午後、日曜、祝日休診)

外来診療担当医師

診療科目	月	火	水	木	金	土(午前)
腎臓内科	前田利朗	前田利朗 前田篤宏	前田利朗 前田篤宏 池田裕次(午前)	前田利朗 前田篤宏	前田篤宏 九州大学医師 (第2・3週午前)	前田篤宏 九州大学医師 (第1・2・4週)
血液内科	松崎美和子 北村浩晃(14時～)	松崎美和子	松崎美和子		松崎美和子 久保田 寧	松崎美和子 (月1回)
呼吸器内科	前田智美(15時～)	前田智美(15時～)	前田智美(15時～) 木下義晃	前田智美(15時～)	前田智美(15時～)	坂本篤彦 (第2・第4)
漢方内科			栗山一道(15時～)	栗山一道(午前)		
一般内科	前田拓郎	前田拓郎	前田拓郎	前田拓郎		
糖尿病内科	前田麻木 松田やよい(午前)	前田麻木		前田麻木	前田麻木	前田麻木
摂食・嚥下 リハビリ						本多知行 (月2回)
消化器内科 内視鏡	菊地宏樹	菊地宏樹	菊地宏樹	別府剛志 (9時～14時)	菊地宏樹	菊地宏樹 (月1回)
整形外科	副島整形外科より(午前)					副島整形より (隔週) * 予約制
	※副島整形外科医師の予定については、外来ロビーに設置しております「外来診療予定表」をご覧ください。(*一部予約制)					

* 上記担当医師につきましては、都合により診療時間等の変更が生じる場合がございます。

* 担当医に関するお問い合わせは、23-5101 までお願いいたします。



今回の前田病院だよりから表紙の写真を担当することになりました古賀です。普段は託児所保育士として勤務しており、カメラを始めたきっかけは「子どもたちの可愛い笑顔が撮りたい!」というものでした。そのうちにカメラの魅力にどんどんはまり、今では花や風景等、心動かされたものを写真に収めて楽しんでいます。まだまだ未熟ではございますが、元気が出る写真をこれからお届けできたらと思っています。記念すべき最初の写真は、夏の花ひまわり。暑い日に大輪の花を咲かせ、元気をくれるひまわりが大好きです。

Photo 古賀

編集後記

早いものでもう半年が過ぎてしまいました。何か思いが残る事…あったかな? きっと、感動したり、悔しくて泣いたり、怒ったり喜んだりしたはずなのに…いつの間にか忘れてしまって日々を過ごしています。忘れてしまえるから良い事もあるけど、楽しかった事や、嬉しかった事は時々思い出せるように、何か残しておきたいものですね。日記や写真、手紙やメールでもいいかな…。喜びや感動は誰かと共有すると記憶にも残りやすいように思います。今年の残り半分も、思い立った事をやり楽しい思い出いっぱい作れるといいですね。

中村